

(熊本県立八代農業高等) 学校 令和5年度(2023年度) 学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>	
<b>【校 訓】</b>	礼節を重んず 勤労を尚ぶ 誠実に生く
<b>【教育目標】</b>	自ら学び考え、未来を創造する魅力ある人材の育成
<b>【教育スローガン】</b>	「新たな一步を踏み出そう！」 ～プラス1 より高く より前へ～
<b>【重点目標】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) すべての教育活動における課題解決の推進と危機管理の徹底</li> <li>(2) 学校・学科等の魅力ある教育の深化</li> <li>(3) 効果的な情報発信と生徒募集への取組の推進</li> <li>(4) 効率的、効果的、教職員の協働による教育活動・校務処理の推進</li> <li>(5) 安心・安全で差別やいじめのない学校づくり</li> <li>(6) 特別な支援を要する生徒への全教職員共通理解による取組の推進</li> <li>(7) 地域の資源や人材を最大限に活用した教育活動と教職員研修の推進</li> </ul>
<b>【教育方針】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域の誇れる生徒の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 端正な制服と礼儀正しい生徒（礼節）</li> <li>イ 目的達成に向けて努力する生徒（勤労）</li> <li>ウ 自立心を持ち誠実に行動する生徒（誠実）</li> <li>エ 命を大切に作る心を持ち他人（ひと）の痛みのわかる生徒</li> <li>オ 文化部・運動部・生徒会・学校農業クラブ・学校家庭クラブ活動に積極的に取り組む生徒</li> <li>カ ボランティアや地域行事等へ積極的に参加し地域貢献ができる生徒</li> </ul> </li> <li>(2) 地域に誇れる教職員への支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 八農泉分校スクール・ミッション具現化のための教職員間の意思疎通と充実した取組</li> <li>イ 進路指導を核とした学習指導、進学・就職支援体制の構築と取組の推進</li> <li>ウ ICTを活用した授業づくりの構築と取組の推進</li> <li>エ 普通教科・専門教科における最新の専門的な知識技術習得のための研修機会の支援</li> <li>オ 特別な支援を要する生徒の全教職員共通理解と情報共有に努め、保護者等や中学校、関係機関との連携を推進</li> <li>カ 研究授業等の活発化による、わかる授業、生徒が主体的に学べる学校づくりの推進</li> </ul> </li> <li>(3) 地域に誇れる学校づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 積極的な広報活動による「八農教育」情報発信の強化</li> <li>イ 幼・保・小・中学校、地域との教育交流の継続と深化</li> <li>ウ 積極的なボランティアや地元行事への活動参加による地域社会への貢献</li> <li>エ 安心・安全で差別やいじめのない学校づくり</li> <li>オ 掃除や整理整頓が行き届いたきれいな教育環境づくり</li> <li>カ 地域社会・住民に理解され愛される学校づくり</li> </ul> </li> </ul>

<b>2 本年度の重点目標</b>	
<b>【教育指導の重点】</b>	<p>「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育行動指標を踏まえた教育の実現を目指して</p> <p>人間尊重の精神をすべての教育の根幹におき、校長を中心とした指導体制のもと、生徒一人一人の教育的ニーズや学校評価等による課題の把握に努める。また、学校間及び学校と家庭・地域社会との連携及び協働を図るとともに、スクールミッションのもと、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行い、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として必要な「生きる力」の育成を目指す。</p>

- (1) 確かな学力の育成と個に応じた指導の充実
- (2) キャリア教育の推進と個性を生かす進路指導の充実
- (3) 道徳教育の充実と命を大切に作る心の育成
- (4) 国家・社会の形成者としての資質の育成と国際社会に生きる日本人としての自覚の醸成
- (5) 体力の向上、豊かなスポーツライフの継続、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実

### 3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理	・教育目標及び重点目標の共通理解と生徒・保護者及び地域への周知	・教職員の理解度100%生徒・保護者の理解度90%以上	・校内掲示、職員会議、保護者会、広報誌等での周知を行う。HP、学校運営協議会等の活用の継続。	B	・教職員の理解度100%（昨年度100%）、生徒の理解度92.1%（同86.2%）、保護者の理解度95%（同100%）であった。十分に理解され周知された。 ・今後更に周知度を高める。
	生徒募集	・募集定員の確保に向けての取組み ・取組みの見直し、創意工夫 ・組織的・効率的な取組み	・次年度入学者20人以上を目指し取組む ・具体的な取組みの工夫 ・具体的な魅力発信方法の工夫 ・「チーム」による取組 ・専門家の活用	・体験入学参加者確保 ・地域との交流連携事業 ・中学生の保護者・教員への魅力発信 ・HPの充実 ・情報発信の創意工夫 ・中学校訪問の徹底	B	・二度の体験入学を実施した。第1回参加者：中学生33名、保護者37名、第2回参加者：中学生14名、保護者17名 ・継続的な地域交流ができた。 ・HPを随時更新し、QRコードを利用してHPをPRするなど魅力を発信することができた。 ・個別の学校訪問数の希望も、個々に対し丁寧に対応した。 ・目標を達成するため一層魅力推進、情報発信の工夫に取り組む。
	学校への適応指導の強化継続	・生徒が自身の目標をもって学校生活を送り本校において自己実現を目指す	・授業や学校に適応できる環境づくり ・校内における情報の共通理解 ・中途退学及び転学者を減らす対策の実施 ・個別支援の強化	・生徒情報の系統化 ・気付きと情報の共有 ・適応できる環境作り、個別対応の強化と継続 ・中学校やSC、SSWとの連携 ・保健環境部との連携	A	・生徒面談や家庭訪問、保護者との連携を丁寧に行った。教職員間での生徒情報の共有も日常的に行われ、支援や指導に生かすことができた。 ・心配される生徒は三者面談や、SCの面談を継続的に実施した。またSSW・児相・関係機関と連携し、ケース会議を実施することで個々の課題解決を目指した。 ・中途退学及び転学者数は昨年度と同じである。
	魅力化発信	・本校の魅力や特色を発信できたか ・発信方法の効率化を高める工夫を行ったか	・体験入学参加者確保 ・次年度入学者20人以上 ・外部からの具体的評価 ・学校HPから情報発信	・パンフレット作成 ・中学校等訪問（行事や体験入学案内で複数回訪問） ・地域との連携 ・学校運営協議会の活用 ・HPの毎日更新を目標	B	・写真を多く取り入れたHPを更新することで学校の取組みを安定して発信できた。 ・魅力化を発信するための学校パンフレット意外にリーフレットやマンガを活用した。

	業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の精選及び整理、見直し</li> <li>・業務内容の見直しの推進</li> <li>・業務の負担感軽減と効率化への工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の精選及び整理、見直し</li> <li>・事務処理の簡略化</li> <li>・ICT活用</li> <li>・各教職員の意識改革</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の精選等</li> <li>・資料配布の削減や復命内容の簡略化</li> <li>・簡易決裁による事務処理の簡略化</li> <li>・ICTの活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は学校行事をおおむね通常開催、公開授業を1回削減した。</li> <li>・ICTの活用と、RPAの導入、卓上モニターの活用などにより業務の改善が進み、印刷物の削減が進んだ。</li> <li>・起案報告や復命内容の事務処理の簡略化を継続した。</li> </ul>
	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善と教職員の意識改革により、さらに本校教育の質の向上を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善への目標設定</li> <li>・徹底した意識改革</li> <li>・昨年度比減少を目指す</li> <li>・出張等の削減</li> <li>・業務の分担の調節</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状と課題確認</li> <li>・定期考査時の定時退庁</li> <li>・校外での会議や研修参加の精選</li> <li>・代休、特休の100%消化</li> <li>・年間15日の年休取得</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月までの累計時間外勤務の全職員平均が昨年度31.16時間に対し、今年度24.23時間となった(昨年度比22%減)。</li> <li>・12月までの全職員の年休取得平均は17.3時間。</li> </ul>
学力向上	学習習慣と基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒へのアンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の家庭学習の機会を増やす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科が連携しての特別企画を実施</li> <li>・ICTの効果的な活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別企画」は実施できなかったが、普通科内での授業見学を日常的におこなった。</li> <li>・ICTの活用はますます促進されてきている。授業の内外はもとより、学校の内外も問わなくなってきた。家庭における生徒の学習の促進にも絶大な効果を発揮している。</li> </ul>
	新学習評価規程の制度の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や学校教育のあらゆる状況に対応できるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度(2023年度)以降の修正の必要がないよう精度を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議や職員研修の実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習評価規定のスムーズな運用ができた。システム上の大きな問題もなかった。来年度も研修を実施し、よりよい評価体制を整えていきたい。</li> </ul>
	教育的ニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育的ニーズへの新たな対応</li> <li>・ICTを活用した対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールミッションの活用</li> <li>・学校設定科目の見直しと継続</li> <li>・ICTの活用と工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価との整合性を確認</li> <li>・学校設定科目とその学習内容についての見直しを行う</li> <li>・ICTの具体的な活用を全職員で取組む</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者、教職員、地域を対象とした学校評価アンケートを実施後、年間反省、評価を実施した。各評価を今後活用する。</li> <li>・個に応じた教育や評価の在り方について教務部を中心に全教職員で検討している。</li> <li>・保護者への情報提供はスムーズに行っていく。</li> </ul>
キャリア教育(進路指導)	進路活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より具体的な進路目標の確立を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路個別面談の実施</li> <li>・進路情報の継続的な提供による具体的な進路先の設定支援による内定100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路WEB資料提供、面談等による指導</li> <li>・キャリアサポーターによる進路支援</li> <li>・進路室の開放及び情報の提供</li> <li>・進学ガイダンスの活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別面談やキャリアサポーターによる進路支援、ハローワークとの連携は円滑に実施して、全員決定している。</li> <li>・教室前に進路情報を置き頻繁に閲覧できるように配慮した。進路相談会やWEBを活用した進路動画などを推奨して啓発に努めた。</li> </ul>
	系統的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年に応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等外部機</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用整備協会の事業を積極的</li> </ul>

	キャリア教育の推進	職業的自立に必要な能力の育成	じた進路ガイダンス、企業見学、企業交流、インターンシップ、緑の時間、社会人セミナー等を実施	関との連携（オンラインを含む） ・インターンシップ、セミナー等の実施 ・職安、雇用整備協会等の事業を積極的に活用		に活用しながら職業について考える場面を設けた。また地元企業見学や林業視察研修などを活用することで職業観の向上を図った。 ・オシゴト探検フェアに参加することで進路についての学びを深めることができた。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	・校則の遵守 ・道徳モラルの向上 ・基本的な生活習慣の定着	・挨拶、時間、整容、言葉遣いを整える ・社会規範の習得、道徳心の向上	・授業や行事、全校集会をととした全体指導 ・日常の学校生活の中で個別指導を行う	B	・校則に関して、生徒たちと意見を交流する場面が増加し、校則への理解を深める機会が多かった。年度内に来年度に向けた、校則の改定について話し合う場面を設けたい。 ・年度当初、意図的に服装を乱す生徒がいたが、先生方の協力のもと声掛けを行い、時間をかけて理解を深めた。寝癖がついたままなどの身だしなみへの意識が乏しい生徒が目立ち、指導を行っている。
	交通安全教育の徹底	・交通安全指導の充実 ・自転車及び原動機付自転車の点検実施 ・原動機付自転車通学生の安全運転意識の向上	・交通事故0件 ・計画的な全体指導 ・個別指導を適宜実施 ・毎月の自転車及び原動機付自転車の整備点検の実施 ・原動機付自転車安全講習会の実施	・授業や行事、全校集会をととした全体指導 ・日常の学校生活の中で個別指導を行う	B	・原付や自転車は、概ね交通法規を遵守しているが、原付の転倒による自損事故、速度の出しすぎによる指導があった。 ・夏季休業中に自動車学校で原付安全講習を実施した。 ・交通安全の講話や、各ホームルームと生徒昇降口に交通安全ポスターの掲示等を通して、日常的な指導を重視した。
	自治活動の充実	・学校農業クラブや生徒会等において、生徒が自律的・主体的な計画を行い、運営する	・年度末の生徒アンケートで「学校行事が充実していた」の回答70%以上	・目的を明確に持った学校行事を計画する ・自分たちの手で、より良い学校を築いていく自律的精神を育成する ・活動の振り返りを行うことで、成果を自信にして次の活動への活力を持たせる。	B	・主体的に学校行事を運営しようという意気込みをよく感じた。 ・生徒会役員が学校行事で主導的な役割を果たしていた。ただ行うのではなく、行事の前に目標やねらいの共通理解をはかっていた。 ・体育祭をコロナ禍以前のものに近い形にすることが出来、満足している。
人権教育の推進	人権意識の涵養	・さまざまな人権課題に関心を持ち、あらゆる差別や偏見を許さない態度の育成	・人権に配慮した言語環境を整える ・人権教育LHRと人権教育講演会の充実 ・職員研修の充実	・人権に配慮した発言の意識高揚と職員研修における検証 ・人権教育推進委員会で人権教育の指導方法の共通認識を図る	A	・各学期に人権教育LHRを実施し、生徒の人権意識の高揚を図った。 ・2学期には「水俣病」をテーマに、職員研修と生徒の人権LHRを合同で講話を実施した。 ・来年度も各学期で学年毎に実施するように計画したい。

	推進体制の確立と研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の実践的指導力の向上</li> <li>・教職員の人権意識の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員、生徒の学校評価アンケートにおいて、人権教育の取り組みが「できている」の回答90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全員が1回以上は校外研修へ参加する</li> <li>・毎年1回の人権レポートを提出する</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員の研修参加はできなかったが、意欲的に参加していただけの体制は整っている。</li> <li>・人権レポートは全ての教職員に提出してもらうことができ、八代地域研修会で代表となり発表ができた。</li> </ul>
	計画的な人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本県人権教育・啓発基本計画を踏まえた、泉分校の人権教育の計画や人権関係文書等を全教職員へ周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育の指導方法等の在り方について「人権教育取り組みの方向」（県教委）の実践に取組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育推進委員会における年間指導計画の精選</li> <li>・昨年度計画の指導内容改善を図り、より充実した人権教育を実践する</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期 1年 インターネットと人権 2年 ハラスメントと人権 3年 言わない・書かない・提出しない取り組み</li> <li>・2学期 同和問題・ハンセン病・水俣病をローテーションで実施し、3年間で全てを学習するよう計画する。 今年度は水俣病を実施。</li> <li>・3学期 1年 同和問題 2年 北朝鮮拉致問題 3年 LGBT(性的マイノリティー) 年間をとおして実施内容を精選しPDCAサイクルを確立させたい。</li> </ul>
	命を大切にすることを育む指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の生命の尊さや生きることの素晴らしさ等、生徒一人ひとりの自覚を全教職員が一丸となって深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科・科目において人権教育の視野に立った指導を意識し、命を大切にすることを育む取り組みを行う</li> <li>・言語活動の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力をとおしお互いを尊重し合える態度を育成する指導の実現を目指して、各教科、各科目の連携を充実させる</li> <li>・情報共有</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼称調査を年度当初に実施し職員で共有し、各教科での授業において、互いを尊重しあえる態度を育成の指導に活かすことができた。</li> <li>・命に関わる心に不安のある生徒の対応がある場合は、人権教育主任として心を育む指導ができるようにしたいが、昨年と違い情報があり、共有できないことがあったので、学年や先生方と連携して情報共有をしていきたい。</li> </ul>
いじめの防止等	いじめ問題への取組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ根絶の取組みを充実させる</li> <li>・人間関係の構築ができるようにする</li> <li>・相談しやすい環境の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のいじめに対する認識を高める研修を計画的に実施</li> <li>・いじめが背景に疑われる重大事態認知件数0件</li> <li>・いじめの問題を自分の問題及び自分たちの問題として考えることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに関する職員研修を実施</li> <li>・全校生徒に対して年3回の心のアンケートの実施</li> <li>・心のアンケート実施後に全員と個人面談を実施</li> <li>・心のきずなを深める標語を募集し、優秀者を表彰</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修、心のアンケート、全生徒との個人面談、標語、集会の実施はできた。</li> <li>・いじめ認知件数は1である。</li> <li>・様々な人間関係のトラブルがある。その都度、担任・学年を中心に、心に寄り添う指導がなされている。</li> <li>・生徒が教職員に相談しやすい環境があると判断し、殊更な学期始めの面談は実施しなかった。</li> <li>・クラスごとの行動計画の策</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・悩みを抱えたときに相談できる関係性を作る</li> <li>・他者の気持ちの重要性や多様なコミュニケーションを学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスごとに心のきずなを深める行動計画を策定</li> <li>・教職員間で生徒情報を日常的に共有</li> <li>・学期始めに教育相談期間を設定</li> <li>・巡回指導の実施</li> <li>・全校集会を実施</li> </ul>		<p>定は行わなかったが、互いの気持ちを尊重しようとする言動はよく見られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化コミュニケーション事業を行い、他者とのコミュニケーションについて、体験的・実践的に学ぶことが出来た。</li> </ul>
地域連携(コミュニティスクールなど)	泉分校ができる防災型コミュニティスクールの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に臨時避難所を設営する際の教職員の役割確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練を行う中で教職員の役割確認</li> <li>・地域の避難訓練等に参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の方との緊密な協力体制の確立</li> <li>・緊急時用の防災用品の点検・確認</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害避難確保計画作成にあたり、泉支所との協力体制の確認を実施した。</li> <li>・緊急時用品等は、年間、二回の賞味期限確認や点検を実施した。</li> </ul>
	泉町の地域住民と交流を図り地域理解に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泉町の行事等に生徒及び教職員を派遣する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会や学校農業クラブ等生徒が主体性を持って行事に参加する環境の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶まつり、町民文化祭および泉まちづくり協議会主催のイベント、挨拶運動の企画・積極的参加</li> <li>・ボランティア活動</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は多くの行事、イベントが縮小や変更となる中で、生徒が関われる範囲の中で積極的に活動を行った。</li> </ul>
専門教育	専門教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の授業への満足度</li> <li>・研究活動の成果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業満足80%以上</li> <li>・成果報告会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録簿をとおして達成度の確認</li> <li>・泉町文化祭にて研究内容の報告</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録簿をとおして達成度の確認が行えた</li> <li>・アンケートをとおして授業満足度は100%であった</li> <li>・泉町文化祭にて研究内容の報告ができた</li> </ul>
	学校農業クラブ活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種大会への積極的取組および成績</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種県大会上位入賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種競技会代表者への指導体制の確立および指導期間・時間の確保</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種競技会代表者への指導体制の確立および指導期間・時間の確保ができた結果、意見発表と鑑定競技で優秀賞を獲得できた</li> </ul>
	地域との交流活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流活動の状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年次、生徒アンケート調査において「できている」の回答80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門教育で生徒が地域や外部と連携した活動において、計画から実施まで主体的な活動の実践</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門教育の中で生徒が地域や外部と連携した活動において、計画から実施まで主体的な活動の実践ができた</li> <li>・生徒アンケートでは「できている」「どちらかというときでている」合わせて100%であった</li> </ul>
特別支援教育	特別支援教育の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育に対する教職員の理解や実践的指導力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期毎の校内研修の実施</li> <li>・校外研修会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズに応じた校内研修の充実</li> <li>・校外研修会への積極的な参加呼びかけ</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に2回、2学期に1回、年間合計3回研修を行った。</li> <li>・校外研修会に今年度はコーディネーター以外からの参加はなかった。積極的な呼びかけが不足した。</li> </ul>
	支援体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒に関する教職員間の共通</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒に関する情報の整理</li> <li>・特別支援教</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員による情報の共有</li> <li>・個別の教育支援計画・指導計</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒理解研修や職員朝礼等で、個々の生徒に関する情報を共有したが、具体的な手立てに触れ</li> </ul>

		理解と個々に応じた柔軟な支援	育推進委員会を中心とした支援体制の確立 ・ケース会議の実施 ・巡回相談の活用	画を活用した支援の方向性の確認 ・コーディネーターによるケース会議の企画・実施		ることができなかった。 ・諸計画の閲覧方法を全教職員で共通理解し、活用を促した。 ・外部機関を含めたケース会議を3回、巡回相談を複数回実施することができたが、校内の支援につなげることが難しかった。
環境教育	教育環境の整備及び省エネ意識の向上	・日常点検と整備の徹底 ・省エネに対する意識の高揚	・教職員、生徒、保護者の「掃除や整理整頓ができています」の回答80%以上 ・学校全体の電気使用量を前年度比1%削減	・校内美化活動の推進 ・落ち着いた学校環境の維持 ・定期的な整備、点検の実施 ・定期的に電気使用量を提示し、保健委員を中心にクラスへの呼びかけを行う	B	・教職員、生徒、保護者への学校評価アンケートで「掃除や整理整頓ができています」に対する回答は「当てはまる」、「よく当てはまる」の合算値は、全ての対象において82%以上であった。 ・每学期実施する安全点検を元に、施設・設備の改修計画的に実施することができた。 ・学校全体の電気使用量は前年度比6%増加となった。本年度は6月下旬に教室にエアコンが設置されたことが増加の要因と考えられる。
保健管理	心身の健康の保持増進	・健康診断後の受診率の向上 ・SCと連携した健康相談活動の充実	・歯科受診率60%以上 ・眼科受診率90%以上 ・SCの定期的なカウンセリングの実施	・未受診者に対する定期的な個別指導の実施 ・月1回以上のSCによるカウンセリングの実施 ・保護者や教職員にSC活用を促す	B	・歯科受診率は1月末時点で53%眼科受診率は60%であった ・SCによる生徒のカウンセリングを実施するとともに、職員研修を実施することができた。 ・保護者4名、教職員4名のSC利用あり。昨年度より活用が進んだ。

#### 4 学校関係者評価

- (1) 小規模らしい落ち着いた仲の良い雰囲気伝わってくる。学校生活の満足度も高いようなので、今後も今の学校文化を大切にしたいと思う。難しいことは承知しているが、様々な取り組みの挑戦し、一人でも多くの生徒が入学するように心から期待したい。
- (2) アンケートを通して泉分校の取り組みがよくわかりました。先生方が一人一人の生徒を大切にされ、生徒たちのために一生懸命に取り組んでいることが素晴らしいと思う。
- (3) 学校の特色を最大限に生かした教育課程の工夫や個別具体的で適切な対応により、教育的効果が上がっていると思う。また地域から高校に求められる地域の期待も大きく、そこにも十分こたえられていて、存在価値が高まっていると思う。そうした地道な取り組みが選ばれる学校になってきている。
- (4) 泉分校は進学先としてはもちろん、泉町を盛り上げる地域組織の一員としてもまた泉小中学校の子供たちのよきお手本となる交流先としても大きな存在となっている。
- (5) 授業や学校農業クラブ、生徒会での満足度が高く素晴らしいと思う。
- (6) 防災の計画の見直しは毎年行ってほしい。QRコードの取り組みはとても良い。どの程度でどの動きをしていくのか、起こる前のことが大事である。出前講座も八代市で行っているので活用してほしい。
- (7) 目標を達成しているかどうかのアンケート項目を入れてはどうか。
- (8) 生徒一人一人の生活環境を理解し、少数の一人一人の意見を大事にしながら進めほしい。

#### 5 総合評価

##### 5 総合評価

###### (1) 確かな学力の育成と個に応じた指導の充実

- ア 泉分校の学習内容は、生徒の興味関心を高める取り組みや基礎学力の定着に向けた取り組みも評価されている。
- イ コロナ禍後、外部との連携により様々な実習が再開している。生徒保護者の満足度も高く、今後より一層学科の目標に沿うよう、地域社会の実態を踏まえながら、専門教科における実習の在り方や学習内容の検討が必要である。

ウ 特別支援教育に関しては、職員研修の実施や外部の専門機関等との連携などが図られ、生徒・保護者アンケートにおいても概ね高い評価となっている今年度も特別支援教育支援員が配置され、より充実した教育環境の構築につながった。

(2) キャリア教育の推進と個性を生かす進路指導の充実

ア 外部機関の協力を得ての企業見学等が系統的に行われている。学習環境の充実や外部人材の活用への取組は満足度が高い。生徒の職業観や勤労観の育成に繋がっていると考えられる。

イ 地域の小中学校、八代市泉支所や地域のコミュニティセンター等との連携や、外部のイベントに多数参加した。地域の課題を生徒が主体的に解決を図る課題研究等の学習に繋がった。また、それを校外で発信する機会も得られた。

ウ インターンシップを実施し、この期間をとおして生徒が自らの職業適性や進路意識の向上が期待できる機会となった。

エ ハローワークとの連携により、より生徒の実態に応じた個別の進路指導や支援が実施することができた。ジョブコーチや就職先への支援移行の手続きも行った。

(3) 道徳教育の充実と命を大切にす心の育成

ア 「命」や「人権」の大切さについて丁寧な指導をしているか、の問いに対するアンケートでは、生徒・保護者・教職員に高く評価されている。

イ いじめ問題の防止に対しては生徒・保護者・職員共に高い評価を得ているが、「当てはまらない」「あまりあてはまらない」も少数おり、今後も面談等で意見を組みとり、早期発見早期解決に努めたい。

(4) 国家・社会の形成者としての資質の育成と国際社会に生きる日本人としての自覚の醸成

地域文化の伝承には教科、校外実習、部活動などで継続的に取り組んでおり、その功績は各大会等で発表し成果を挙げている。

(5) 体力の向上、豊かなスポーツライフの継続、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実

ア 年度当初に新入生の家庭訪問を実施している。課題を抱える生徒の職員の共通理解、継続的な声掛けや面談、指導に取り組んだ。

イ SCやSSW、関係機関との積極的な活用と連携により、課題の早期解決に取り組むことができた。

## 6 次年度への課題・改善方策

### 6 次年度への課題・改善方策

(1) 生徒募集の取り組み

ア 2回の体験入学、個別の訪問で丁寧で充実した対応を心掛け、学校の良さを伝える。

イ 新年度の学校パンフレットを早期作成し、1学期から始まる学校説明会時に配布できる準備する。

ウ 学校ホームページを見やすく整理し、学校生活を紹介する。

エ 魅力発信のために発表会等への参加、新聞等への取材依頼を積極的に行う。

(2) 職員の働き方改革

ア 時間外勤務時間については、大きく減少した。分校は職員が少ない。年度末や年度当初の減少を目指し、各文書におけるマニュアル化を進め、スムーズな引継を目指す。

イ ICTを活用し、更なる業務の効率化や学校行事の見直し、出張の精選等をさらに進める。

(3) 特別支援教育の充実と個々の生徒に応じた教育の充実

ア 特別な支援を要する生徒や課題を抱える生徒の中学校からの引継ぎ、合意形成と合理的な配慮や支援の実施、卒業後の移行支援まで、切れ目のない支援をめざす。そのために、引継ぎ時の情報確認、入学後の家庭や外部関係機関との連携を深める。

イ 研修を通じて教職員のスキルアップを図るとともに、組織的に取組める指導や支援の体制づくりをより一層進めていく。

ウ 基礎学力の定着を高めるために、基礎診断等を活用し、各教科で生徒の現状の分析、課題解決に取り組む。

(4) 安全・安心な学校づくり

ア いじめ認知0を目指し、面談や声掛けにより早期発見早期解決を目指す。

イ 避難訓練を年間計画に入れ、生徒・職員の意識を高め、職員による防災対策の周知徹底のためにQRコードによるマニュアル確認を実践する。